

る能力を養う。

3 乳幼児に影響を及ぼす児童文化財や遊び場の現状を把握させ、その健全な育成に協力する態度を養う。

4 乳幼児の健康を保持増進させるには適正な養護と鍛練の必要なことを理解させる。

(二) 配当時間と本時の位置(省略)

四 指導の実際

(一) 本時の目標と授業の流れ

・調査・観察を通して発表を中心として、幼児の発達段階に応じた生活習慣の形成を知らせ、その時期と方法を理解させる。

・幼児期の独立と依存心が培われる原因と方法を知らせる。

・親や家族の幼児に対する接し方の良否を考えさせる。

(二) 指導案(別表)

(三) 指導に当たって特に工夫した点

1 課題及び与え方  
年間計画に従って、テーマを与えてあるが、更に細目にかけて、まとめやすいようにする。(二週間前に確認する。)

2 研究主題解決のための工夫

ア 生徒の学習活動を能率的に、興味と研究意欲を強める方法として五人ずつのグループに着席させた。

イ 既習の「乳幼児の心身の発達」「乳幼児の食物と被服」と関連させながら習慣をつけていく場合と新たな事項に注意したらよいか考え

別表指導案

過程	学習内容	学習活動	時間	指導上の留意点	資料
導入	(ア) 本時の目標の把握	はじめ ↓ 本時のねらい ↓ グループの話し合	5 5	○観察記録、スクラップ等の各自の資料より想起させる。	乳幼児の観察記録 保育スクラップブック
	(イ) 生活指導に関する観察事項の発表	グループ代表 ↓ 確認 ↓ (ウ) の発表	15 5	○問題点を提起させる。 ○観察した保育所や幼稚園での生活習慣形成の方法を参考にして、個人、個人の心身の発達や適応能力に応じて習慣形成の方法を考えさせる。	
展開	(ウ) 現代人としての習慣	(ウ) の発表 ↓ (ウ) の中から乳・幼児期につける必要のあるもの選択	5	○生徒の観察した例や、経験などをできるだけ発表させるようにする。 ○母が自分に習慣づける際の苦労した話など発表させて保育の方法は画一的でないことを知らせる。 ○保育者としてふさわしい生活習慣を発表させ、これとの比較によって自己を把握させ、将来のために現在から何をすべきか考えさせる。	(OHP) ○現代人として身につけておきたいと思われる習慣の表(生徒作)
	(エ) 基本的な生活習慣の意義と目的	(エ) の説明	10	○こどもの人格形成の上から、乳・幼児期の生活指導の重要性を知り、正しい保育態度について理解させる。 ○自分の習慣や「カラマ」の適応過程の例に環境によってそれと異なること、幼少時に身につけておきたいことと、これを把握	(OHP) ○カラマの適応過程表(教師作) ○基本的習慣形成の標準資料図説

させた。

ウ 観察した保育所や幼稚園でつけている習慣の内容やつけ方について発表させた。

エ 基本的習慣を主に、年長になるに従って社会的習慣形成についても指導されていることを認識させた。

オ 基本的な生活習慣の一つである食事の習慣として、どのようなことを指導したらよいか発表させた。

カ 望ましい食事の習慣としてつけたいことはこれだけでよいか、等発表を中心としてグループで検討させて、注意点や問題点について発表させた。

キ 発達段階に応じて、無理なく楽しい雰囲気のもと、家族全員が一致して同じ方針で、繰り返し練習させる必要のあることを把握させた。

ク 個人差があるので、保育に当たっては、弾力的にすべきことも事例によって把握させた。

ケ 各自についている食事の習慣の中で望ましくないものをあげさせ、乳幼児の習慣形成に当たっては、保育者がまず模範となることが大切なので、それに近づこうに心がける意欲を持たせた。

コ 「自由」と「放任」の違いについても十分考えさせ、「よい子」の像をはっきりと体得させることを目的として扱った。

3 発表のさせ方

ア 五人のグループ構成で、研究テーマは生徒の希望を優先に進めさせる。

イ 発表の内容は、授業の三日前までにその要旨をノートに整理して、指導を受けるように指示する。

ウ 研究内容が効果的に活用できるような資料及び発表の方法についても個別指導をする。

エ 発表者以外の生徒にも、観察記録や自分の経験など資料の準備について指示する。

オ 各自の資料は教科書の項目にあわせて整理をさせておく。

カ 評価項目を五項として学年末評定に考慮する。

4 問題把握

ア 習慣とはどういう行動をさすのか考えさせた。

イ 自分の習慣と思われることがらについて発表させ、個人によって差のあることを認識させた。

ウ カラマの適応過程の表を説明し